

企業ニュース 島津製作所

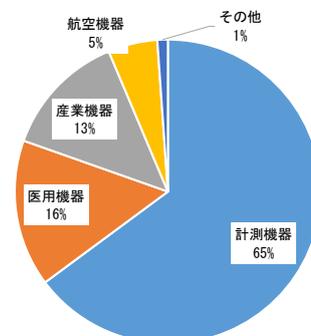
(東証プライム: 7701) <https://www.shimadzu.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

国内老舗、計測機器メーカー

1875年に教育用理化学器械メーカーとして創業し、1917年に設立された計測機器メーカー。計測機器を主力に、医用、航空、産業機器などの領域にも事業展開している。主力は計測機器で、ガスクロマトグラフ(GC)、質量分析計(MS)、液体クロマトグラフ(LC)を重点機種とし、その他光分析装置や環境モニタリング装置などを様々な分野の研究、技術開発、品質管理向けに提供。新型コロナウイルス検出試薬キットや全自動PCR検査装置なども販売する。医用機器では、X線撮影装置などを展開。産業機器は、ターボ分子ポンプ(TMP)を中心に、フォークリフト・建機向けの油圧機器などを展開している。TMPは半導体製造装置の基幹部品で、足元需要が拡大。航空機器はフライトコントロールシステムなどを防衛省や米国大手民間航空会社に納入している。

◇22.3期売上高構成比



(出所) 島津製作所資料よりCAM作成

計測、産業が業績をけん引

22.3期の連結業績は、売上高が4,282億円、前期比9%増、営業利益が638億円、同28%増。計測と産業が業績をけん引し、売上高、各段階の利益は共に過去最高を更新した。計測機器は重点機種のLC、MSが医薬品業界向けなどで伸長し同12%増収となったほか、新型コロナ感染拡大によりPCR関連(検査装置・試薬キット)や、輸送機向けの回復などで試験機も増加した。産業機器では、半導体製造装置向けの需要にけん引されTMP売上高が275億円、同32%増と拡大した。航空機器は昨年の防衛省向け大口案件の反動減に加え、民間航空機向けの需要減少により減収、営業黒字は確保したものの大幅減益となった。しかし、決算説明会では民間航空機需要に底打ちの兆しがみられるとの感触が示された。

23.3期連結業績の会社計画は、売上高が4,550億円、同6%増、営業利益が680億円、同7%増。研究開発費や設備投資額は増強されるがLCの伸長、TMPのシェア拡大など増収効果で補い、売上高、営業利益とも3期連続で過去最高の更新を目指す。為替は1ドル115円、1ユーロ130円の想定。営業利益の感応度は1円でドルが4億円、ユーロが0.7億円。

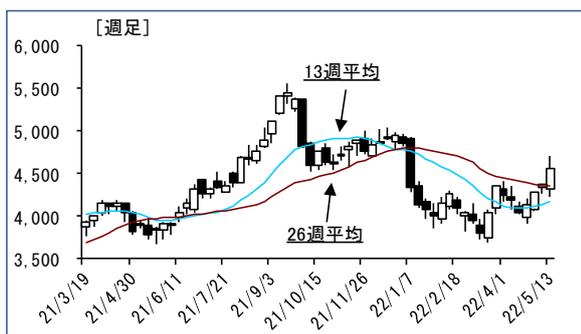
[株価動向・投資判断]

計測機器およびTMPの需要拡大が業績をけん引、為替の円安推移も利益に貢献しよう。

<7701 島津 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	393,499 (2)	49,742 (19)	48,378 (13)	36,097 (14)	122.5	34.00
22.3	428,175 (9)	63,806 (28)	65,577 (36)	47,289 (31)	160.5	48.00
23.3 予	455,000 (6)	68,000 (7)	68,000 (4)	49,000 (4)	166.3	50.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2022/5/13)	4,560 円
年初来高値(高値日)	4,925 円(22/1/4)
同 安値(安値日)	3,685 円(22/3/15)
予想P/E R(23.3予)	27.4 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,293.6 円
P/B R	3.53 倍
予想配当利回り	1.10 %
(1株当たり配当金年50.00円)	
R/O E(22.3)	13.2 %
発行済み株式数	29,607 万株